

はじめに

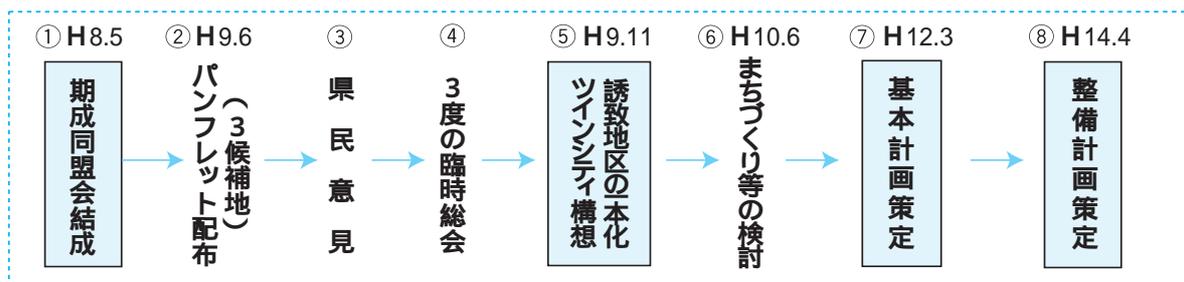
1 東海道新幹線新駅の誘致とツインシティ

県と神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会では、より多くの県民の皆さんの利便性の向上につながることを、さらには、JR東海にとっても魅力がある場所と考えられることなどの視点から、JR相模線やさがみ縦貫道路（圏央道）との結節点である寒川町倉見地区を新幹線新駅誘致地区に決定しました。

そして、相模川を挟んだ東西両側の地域の連携を図りながら、相乗効果を発揮し、両地域の発展につながる都市づくりとして、新駅誘致地区の倉見地区と相模川対岸の平塚側地区とを一体化した環境共生のモデル都市をめざすツインシティの整備に取り組んでいます。

このツインシティは広域交通の結節点にあること、周辺には産業や学術研究機関などが高度に集積していることから、これらを活かして都市づくりを進めるとともに、周辺都市からのアクセス整備を図ることにより、周辺地域の発展へと導いていきます。また、こうした取組みにより、ツインシティが鉄道事業者にとっても魅力あるものとなるよう努力していくことが、東海道新幹線新駅の実現につながるものと考えています。

(1) 神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会の活動経過



- ① 平成8年5月31日、県中央部地域を活性化して県土の均衡ある発展を図るためには新幹線新駅が不可欠であるとの認識から、昭和45年頃から相模川東西でそれぞれ行われていた誘致活動を一本化して「神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会」（以下、「期成同盟会」という。）を結成しました。
- ② 平成9年6月、3地区（平塚市大神地区、寒川町倉見地区、綾瀬市落合地区）を新駅誘致の候補地として、これを周知するためにパンフレットを配布しました。
- ③ このパンフレットをもとに、県民の皆さんから6,600件のご意見をいただきました。また、新駅誘致の要望書が約59万3千人の署名によって提出されました。
- ④ 期成同盟会では、3度の臨時総会を開催して誘致地区を寒川町倉見地区に決定しました。

- 第1回臨時総会（平成9年7月24日）では、会員による意見交換を行いました。
- 第2回臨時総会（平成9年10月27日）では、次の地区選定の3つの視点を提示しました。

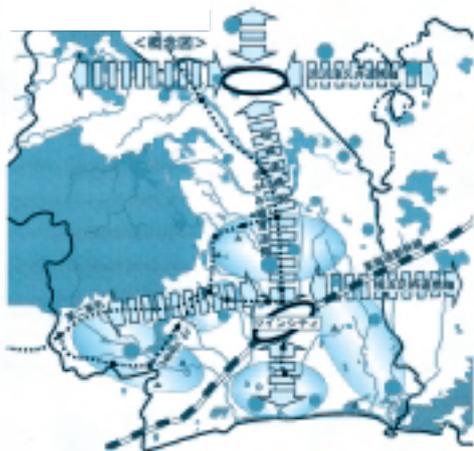
- (7) 相模川を挟んだ東西両側の地域の連携を図りながら、相乗効果を発揮し、両地域の発展につながるまちづくりができること。
- (4) 広域性、利便性の視点から、より多くの県民の皆さんの利便性の向上につながること。
- (9) JR東海にとっても、魅力ある場所と考えられること。

○ 第3回臨時総会（平成9年11月6日）では、**知事からツインシティ構想と誘致地区を寒川町倉見地区とする提案があり、全会一致で決定しました。**

- ⑤ 平成9年11月、期成同盟会は、第3回臨時総会の決定を受けて、「ツインシティ構想」と「新駅誘致地区」を発表しました。
- ⑥ 平成10年6月、期成同盟会の下に「まちづくり検討協議会」を設置して、新駅誘致に向けてツインシティのまちづくりとアクセス整備の検討を開始しました。
- ⑦ 平成12年3月、県民参加を行いながら「ツインシティ基本計画」を策定しました。
- ⑧ 平成14年4月、「ツインシティ整備計画」を策定しました。

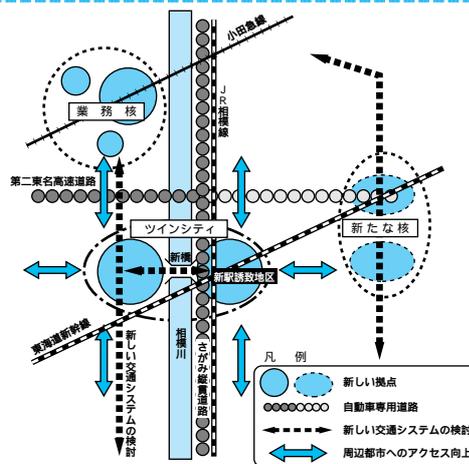
(2) 県央・湘南都市圏整備構想とツインシティ構想

県央・湘南都市圏整備構想



- これからの県央・湘南都市圏の整備にあたっては、地域の長年の夢である東海道新幹線新駅とリニア中央新幹線新駅を誘致して、全国との交流連携の窓口となる二つのゲートを形成し、これをつなぐ南北方向の交通と情報からなる軸をJR相模線の複線化やさがみ縦貫道路等の整備により強化し、都市圏の一体性と利便性の向上、新たな活力の創造をめざします。
- さらに、相模川流域や湘南海岸地域等の都市の中に残された貴重な自然空間を生かし、環境に配慮した都市づくりを進めることにより、環境と共生した生活都市圏の形成を図ります。

ツインシティ構想



- ツインシティ構想は、平成9年11月に期成同盟会が新駅誘致地区を寒川町倉見地区に決定した際に、提案した都市づくりです。
- この都市づくりは、相模川に新たな道路橋を架けて、新駅誘致地区の寒川町倉見地区と相模川対岸の平塚側地区とを橋りょうで結び、川の東西両地区を一体化した環境と共生する都市を形成するものです。
- また、ツインシティの形成と併せて周辺都市からの交通体系の整備を図ることにより、相模川を挟む東西両地域の一体化や周辺都市との密接な交流連携を促進し、県央・湘南都市圏全体の発展をめざします。

2 ツインシティ整備計画について

(1) 整備計画の趣旨

これまでの都市づくりは、過去の都市形成の延長線上、あるいは、先進事例を参考にして、その将来の姿を示し、その実現に向けて進められてきました。

しかし、人口減少社会の到来、成熟と安定の時代の到来によって、地球規模の環境を重視することや地域の特性を生かしたまちづくりなど、都市づくりに求められる社会ニーズが時代とともに変わってきており、これからは、こうしたことを視野に入れて取り組むことが必要です。

そこで、このたび策定する「ツインシティ整備計画」では、ツインシティ整備にあたっての基本となる考え方を県民・企業・行政の「**三者の協働（役割分担と連携）による都市づくり**」とし、時代の変化や社会ニーズが多様化していくことに適応してツインシティの整備を進めることができるよう、「**都市づくりのシナリオ**」を示した上で、「**都市づくりの骨格（スケルトンプラン）**」と「**都市づくりの進め方（ステージプラン）**」を定めることにしました。

このツインシティ整備計画を基にして、県民・企業・行政の三者が話し合いを重ねていきながら都市づくりを展開していくことにより、ツインシティ整備の意義を果たしていくとともに、東海道新幹線新駅の誘致を進めます。

(2) 地元市町の基本計画との関係

ツインシティの地元である平塚市と寒川町では、ツインシティのまちづくりを市民・町民や地元の皆さんのご意見をいただきながら、地域の視点からそれぞれに基本計画としてまとめています。(81, 82ページ参照)

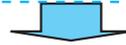
また、県と期成同盟会では、相模川の寒川側、平塚側の両地区が機能分担と機能連携を図りながら一体的な都市を形成し、県央・湘南都市圏全体の利便性の向上と発展に寄与する環境共生モデル都市、さらには、東海道新幹線新駅を誘致するのにふさわしい都市としてツインシティが整備できるよう、地元市町が策定する基本計画を尊重しながら、広域の視点からツインシティ整備計画を策定しています。

今後、地元市町と県、期成同盟会は一層密に連携して、これらの計画を基にツインシティの具体的な都市づくりについて、地元の皆さんと十分に話し合い、協働して、地域の視点と広域の視点を兼ね備えたツインシティの整備を進めていきます。

(3) 整備計画の構成

ツインシティ基本計画（平成12年3月策定）

- ・めざす都市像
- ・土地利用の方針
- ・取組みの方向
- ・交通に関する方針
- など



ツインシティ整備計画

序 ツインシティ整備の意義

- ・首都圏を分散型ネットワーク構造へと変えていくための核とする。
- ・「県土全体のバランスある発展」を導く核とする。
- ・県央・湘南都市圏を環境と共生する都市圏へと誘導していくための核とする。

第1章 ツインシティ整備にあたっての基本となる考え方

- ・県民・企業・行政の三者の「協働（役割分担と連携）による都市づくり」

第2章 ツインシティの都市づくりのシナリオ

- ・ツインシティは、4つの段階で都市づくりを進めていきます。
- ・まち開きの目標を2015年とします。

ツインシティへの交通アクセスと都市づくりの骨格（スケルトンプラン）

第3章 ツインシティへの交通アクセスの骨格

鉄道等の公共交通網の整備

- ・東海道新幹線新駅の誘致
- ・JR相模線の輸送力の増強
- ・相鉄いずみ野線のツインシティへの延伸
- ・新たな交通システムの整備

道路ネットワークの整備

- ・さがみ縦貫道路（圏央道）
- ・第二東名高速道路
- ・新橋と接続道路
- ・（仮）藤沢寒川軸など

第4章 ツインシティの都市づくりの骨格

都市づくりの基本方向

- ・相模川の平塚側、寒川側の両地区が相互に補完し、相乗効果を発揮する都市づくり
- ・1万人の雇用の場の創出と5千人の居住の場を創造する都市づくり
- ・職・住・遊・学が一体となった複合拠点を創る都市づくり
- ・環境共生のモデルとなる都市づくり

部門別の都市づくりの骨格事項

- ・土地利用の骨格事項……都市づくり先導地区、魅力づくり地区など
- ・交通の骨格事項……交通結節拠点、新橋と接続道路、骨格道路など
- ・水・みどりの骨格事項……水とみどりのネットワークの形成など
- ・環境インフラの骨格事項……環境への負荷を低減する基盤整備など

第5章 都市づくりの進め方（ステージプラン）

第6章 ツインシティの整備に向けて（これからの具体的な取組み）